

執筆要領に付する単位表記について

■ 基本ルール

- 1) 単位は原則として SI 単位を使用し、記号で表記する。SI 単位以外であっても、SI 単位と一意的な関係があり、誤解を生じないものであれば、使用可能である。また、時間や個数、金額などは日本語表記でもよい。
- 2) 組み立て単位は、なるべくべき乗で表現する。"/ (スラッシュ、斜線)"を使用してもよいが、使用は 1 回以内に限る。べき乗とスラッシュの併用は望ましくない。
- 3) 文字に単位を付すときは、単位を [] で囲む(例: P_A [MPa])。
- 4) 数値に単位を付すときは、単位を [] で囲まずに、数値と単位の間を半角空ける(例: 5.4 × 10⁴ ng m³)。
- 5) 文字や数値を単位で除する表現方法も使用可能である。
- 6) 10 のべき乗(10⁵など)を使用することとし、1E-5 などの表現は使用しない(計算表などで現れるのはかまわない)。また千、万などの日本語表記でもよい。

■ 使用可能な単位一覧

注) この一覧になくても、同様の表記であれば、使用可能である。ただし、一部、推奨されないものもあるので、それらについては理由を付して示している。

基本単位

長さ								
m	nm	μ m	mm	cm	km			
面積								
m ²	mm ²	cm ²	km ²	ha				
体積								
m ³	mm ³	cm ³	km ³	L	μ L	mL	kL	Nm ³ もしくは m ³ (N) ^{*1}
質量								
g	pg	ng	μ g	mg	kg	ton ^{*2}		
※換算単位については、gC、gCO ₂ と記載することで、炭素換算か二酸化炭素換算かを明記することは推奨される。								
温度								
K	°C							
時間								
s	μ s	ms	min	h	d	w	month(=30 d)	y(=365 d)
日	週	月(=30 日)	年(=365 日)					
モル数								
mol	nmol	μ mol	mmol	kmol	eq(当量)			
^{*3}								
電荷								
C								
照度								
cd								
人・個数・件数・回数								
人 (person)	世帯	自治体	個	件	回			
金額								
円(¥、JPY)	ウォン	ユーロ(€、EUR)	元	米ドル(US\$, USD)	香港ドル など			

組み立て単位

濃度・組成									
mg/kg = mg kg ⁻¹		mg/L = mg L ⁻¹		mg/m ³ =mg m ⁻³		ng/Nm ³ = ng Nm ⁻³			
mol/L = mol L ⁻¹ = M									
ppmv (= mL/m ³ = mL m ⁻³)		% (湿ベース)			% (乾ベース)				
※ppmは推奨されない (理由: 質量比であるのか体積比であるのかが不明確なため。ただし、適切な説明があれば使用可)									
速度・率									
mol m ⁻² s ⁻¹		mol/(m ² s)							
J mol ⁻¹ K ⁻¹		J/(mol °C)							
tCO ₂ /(人 日)		tCO ₂ /(person d) *4		円/(人 日)		円/(年 世帯)			
※以下は推奨されない (理由: 分母が不明確なため。スラッシュを 2 回以上使ったり、スラッシュとべき乗の混合使用も、推奨されない)									
mol/m ² s		mol/m ² · s		mol/m ² /s		円/人/日		t/person d	t/person d ⁻¹
エネルギー・仕事率									
J	kJ	MJ	kWh (=3600000 J)		cal *5	W	mW	kW	MW
圧力									
Pa	atm	mPa	hPa	kPa	MPa	mmHg (=torr)		mmAq (=mmH ₂ O)	
bar *6	psi *7								

- *1 ガス量を表すときに使用する。標準状態(0 °C、1 atm)での理想気体の体積のこと。Nm³と m³(N) のいずれの表現を使用してもよい。
- *2 トン(=1,000 kg)は、"t"、"ton"、"tonne"、"metric ton"のいずれの記載でもよい。ただし、大トン(イギリストン=1,016 kg)、小トン(アメリカトン=907 kg)は、使用しないこと。
- *3 equivalent(当量)の使用にあたっては予め定義しておくこと。
- *4 "kg per capita per day"は英文で記載するときには使用してもよいが、なるべく、"kg/(person d)"で記載する。
- *5 特段の理由がない限り、Jに変換されることが望ましい。
- *6 10⁵ Pa のことであるが、なるべく、kPaなどで表現する。
- *7 装置条件などで psi が使われることがあり、その場合には使用してもかまわない。